

◎組合訪問記 「基幹労連・川崎重工労働組合兵庫支部」

# 組合員の声を聞くことを第一に 組合員・家族の安心をサポート



川崎重工労働組合  
兵庫支部 事務所

**Q1** まず川崎重工労働組合兵庫支部の成り立ちと組合員数、役員体制などについてお聞きしたいと思います。

現在の組合員数は、1260名です。一番組合員数が多かったのは、昭和初期で2500、3000名いました。役員体制は、委員長、書記長、執行委員2名の4名体制で、委員長と書記長のみ専従で、執行委員2名は非専従です。職場委員は支部委員と呼んでいますが、5つのブロックに30名の支部委員が配置されて、職場の世話役を担っています。労働組合の結成は、戦後すぐの昭和20年12月のことです。その頃は、技術部門と現場部門とで組合が分かれていましたが、やがて一つになりました。昭和44年に川

崎重工労組連合会が結成され、昭和47年10月に川崎重工労組として本化されました。男女の比率は、圧倒的に男の職場でして、兵庫支部の女性組合員は事務職を中心に40名くらいです。

**Q2** 川崎重工労組兵庫支部の伝統の中で、大切にされているものは何ですか。

結成以来の伝統として、組合員の声を聞くことを第一にしています。昔から兵庫支部では組合員が職場の悩みや相談事、意見などがある場合、まず、言ってくる場所は、職場の上長ではなく、組合の方に言ってくる人が多いですね。組合員にとって、労働組合の方が何でも言いやすいし、聞きやすい存在であることの証明であると思いますので、この伝統をこれからも大切にしていきたいと思えます。

**Q3** 川崎重工労組兵庫支部の主な活動の特徴についてご説明ください。

職場を大切にしていく活動に力を入れていますが、具体的には、2カ月に1回、組合員の皆さ



●川崎重工労働組合兵庫支部  
支部執行委員長  
**渡辺 智教**  
わたなべ ともりのり



支部書記長  
**植村 武史**  
うえむら たけし

**Q4** 現在、特に重点を置いている活動についてお話しください。

最近では、組合員の暮らしや人生に役に立つコミュニケーション強化について重点を置いて取り組んでいます。これは、兵庫支部だけでなく、川崎重工労組全体で取り組んでおり、毎年4月から7月をコミュニケーション強化月間にして組合内部におけるコミュニケーション、会社と職場とのコミュニケーションの強化に取り組んでいます。事業所としても従業員に今年度の生

## 基幹労連・川崎重工労働組合 兵庫支部



「家族会の潮干狩り」  
いざ、貝獲りに出陣



お父さん、  
ここ掘って



お楽しみ  
抽選会

産目標などをきちんと事前に説明するなど、従業員が全体目標を認識した上で仕事に取り組めるようコミュニケーションを良くするようにしています。部門単位でも職場の生産目標を事前に明確に従業員に説明し、従業員一人ひとりが全体の生産目標をきちんと認識した上で、仕事のモチベーションをあげて仕事に取り組めるように働きかけています。

**Q5** 現在、川崎重工労組兵庫支部として抱えている課題についてお話しください。その課題について、どのようにチャレンジしていかうとされているか、考えをお聞かせ下さい。

組合活動の「見える化」にチャレンジしているところです。最近の労働組合の活動は、賃上げもあまり芳しくなく、組合は組合費を取って何をやっているのかと思っっている組合員が増

えています。そのため、組合執行部が、時間を見つけては、職場に入るように心がけて、組合活動のPRに努めています。特に、新入組合員を対象にした研修会を、川重労組本部が作成した組合活動パンフレットを教材に行っています。また、支部行事として、いろいろなイベントを企画、実施していますが、例えば、会社と共催でファミリー行事や工場見学会の開催、組合では家族会の潮干狩りなどを行っています。

**Q6** 最後に労働組合の活動を進める上で、ご自身のモットーや心がけていることがあれば教えてください。また、あなたにとって、労働組合とは何ですか？労働組合の役割とは何だと考えますか？

【渡辺委員長】私は労働組合とは、組合員に対するサービス産業だと思っています。賃上げだけ

でなく、組合員にサービスすることが労働組合の活動だと考えています。そういう意味で、組合員のために必要なサービスをメリハリを持って行うことが重要だと思います。こちらの力不足もありますが、例えば、組合員の安全モラル、責任感といった意識を向上させることも組合の重要な役割だと考えています。それから、政治意識のアップも大事な活動です。労働組合の役割は、よく言われていますが、例えば、大きな鉄の玉を動かすためには、最初はみんな力を合わせないと動きません。しかし一旦動いてしまうと、自力で回って動くのでそんなに人の力は要らなくなります。これと同じように、組合活動も大きな問題があるときは、組合員もみんな注目して関心を持って集まりますが、大きな問題がなくなると組合員は労働組合に関心を持たず、組合活動にも参加しなくなってしまう。かしまったことよりも、組合員の皆さん一人ひとりの仕事や生活に関する問題への世話焼きなど、ごく普通の日常活動を大切にしていくなことを労働組合の役割だと考えています。

【植村書記長】今は、組合活動だけでなく、会社にしても、みんな一緒に一つのことをやっていると、気持ちが悪くなりつつあります。そういう中で、労働組合は、組合員や従業員みんなが気持ちがいっしょになれるための空気のような存在であると言っていてよいと思います。何にもない時には、あまり目立つ存在ではないのですが、しかし、組合員にとって無いと困るものが労働組合だと思います。組合員一人ひとりが、安心して、人間らしく、いきいきと働き続けて、組合員の家族も含めてみんなが安心して生活できるように、サポートしていくことが労働組合の役割だと考えています。